

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	上那賀町海川小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1		1		1			3	5
児童数	2	2	4	1	1	2	0	12	

研究の概要

1. 研究主題

<p>“よりよくかかわる力”を創造する学習指導の工夫 - 一人一人の学力を確かなものにする指導と評価 -</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 学校の規模が小さく，児童が少人数であるため。 ・国語 多様な学習活動，言語生活，読書生活において国語科で身につける学力が基礎となることが多いため。 ・算数 一人一人に応じたきめ細かな授業が十分に実施できる環境にあるため。

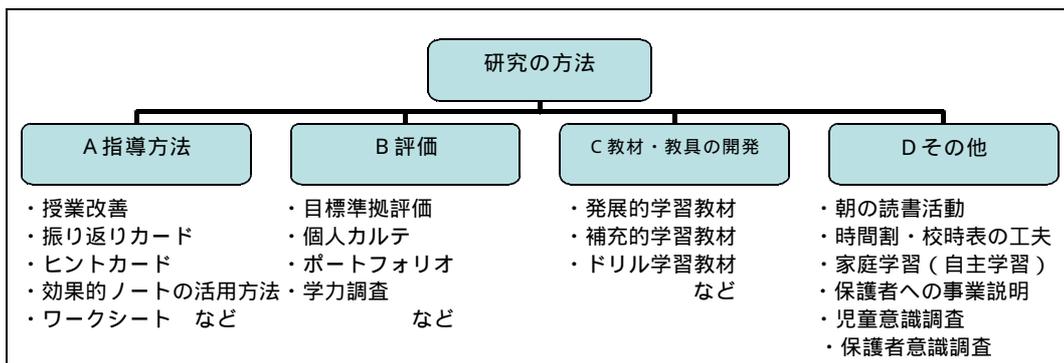
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	*平成15年度より指定を受ける。
--------	------------------

平成15年度	<p>テーマ “よりよくかかわる力”を創造する学習指導の工夫 - 一人一人の学力を確かなものにする指導と評価 -</p> <p>研究の見通し ・一人一人の児童の主体的に生きる力を育成するために、「大杉タイム」をはじめとする体験性豊かな本校の特色ある教育活動と、「確かな学力」を身につけさせるための学習指導とを関連づけながら一人一人の主体性（自己）を育てることを目指す。 ・“豊かな体験”と“確かな学力”の2つの柱に支えられた“自己”を育み，自分を取り巻く様々な事物・事象とよりよくかかわる力を身につけさせる。</p> <p>研究の内容・方法 上記の研究の目的を達成するために，以下の項目を重点的に実践研究する。 ・様々な体験を通して自己の良さや可能性に気づき，進んで伸ばそうとする態度を養う。 ・朝の自主活動の時間を利用し，児童一人ひとりの理解や習熟の程度に応じた指導体制を確立する。 ・各教科・総合的な学習の時間との関連づけを工夫しながら，学びの意欲を高める。 ・児童一人一人の学習状況を適切に評価・把握し，学習指導要領にある各学年の目標及び内容の実現に努める。</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ “よりよくかわる力”を創造する学習指導の工夫 - 一人一人の学力を確かなものにする指導と評価 -</p> <p>研究の見通し ・一人一人の児童の主体的に生きる力を育成するために、「大杉タイム」をはじめとする体験性豊かな本校の特色ある教育活動と、「確かな学力」を身につけさせるための学習指導とを関連づけながら一人一人の主体性（自己）を育てることを目指す。 ・“豊かな体験”と“確かな学力”の2つの柱に支えられた“自己”を育み、自分を取り巻く様々な事物・事象とよりよくかわる力を身につけさせる。</p> <p>研究の内容・方法 ・様々な体験を通して自己の良さや可能性に気づき、進んで伸ばそうとする態度を養う。 ・朝の自主活動の時間を利用し、児童一人一人の理解や習熟の程度に応じた指導体制を確立する。 ・各教科・総合的な学習の時間との関連づけを工夫しながら、学びの意欲を高める。 ・児童一人一人の学習状況を適切に評価・把握し、学習指導要領にある各学年の目標及び内容の実現に努める。 ・家庭との連携を取りながら、児童の自主的・主体的な学習に取り組む態度を養い、家庭における学びの充実を図る。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

本校では、週2回の朝の全校読書や国語科、算数科の朝のドリル学習を各1回ずつ本年度より実施することにした。国語科のドリル学習では言語事項を中心に、算数科では四則計算を中心に「ホップ」、「ステップ」、「ジャンプ」の3段階のプリントを作成し、個に応じた学習を支援している。さらに、個人カルテを作成し、学期ごとに評価を行い、目標に到達できない児童には具体的支援の方法を考え、学年を超えて継続的に指導していくようにした。また、授業における観点別判断基準では、少人数学級である利点を生かし、評価規準をもとに中心となる「B おおむね満足」を明確に想定し、「A 十分満足できる」、「C 努力を要する」については、その具体的な事例を個別に記録し、特に「C」については、個に応じた手だてを考察し、今後の指導に役立てるようにしている。学習指導要領の目標や内容に準拠した評価規準や観点別判断基準を様々な時間的スパンで作成することにより、一人ひとりの児童が主体的に「確かな学力」を身につけていく過程を大切に教育が展開されると考える。

すべての学年の個人カルテに、小学校で達成すべき目標や内容が明確にされていることで、それぞれの学年・教科担当の教師が、どの時期にどれだけのことを身につけさせなければならないか把握し、指導にあたることで、効率的・効果的指導の実現に近づきつつある。また、子どもたちもそういう教師の姿勢や意欲を感じ取っているのか、冬季休業日中の「国語・算数教室」にも参加者が多く見ら

